指導と評価の年間計画（シラバス）

学校番号	1205
大阪府立岬高等学校　総合学科	

令和　2 年度　家庭　科

教科	家庭(専)　科	科目	子どもの発達と保育	単位数	2　単位	年次	2　年次
使用教科書（出版社）	子どもの発達と保育 育つ・育てる・育ち合う（教育図書）						
副教材等（出版社等）	なし						

1．担当者からのメッセージ（学習方法等）

子どもの成長や発達段階における特徴を学びます。また、子どもを見守り育てるためにふさわしい養育者・保育者として、子どもにどのように接するべきか、法律なども交えて学んでいきます。

2．学習の到達目標

子どもの発達の特性や発達過程、保育などに関する知識と技術を習得させ、子どもの発達や子育て支援に寄与する能力と態度を育てる。

3．学習評価（評価基準と評価方法）

観点	a：関心・意欲・態度	b：思考・判断・表現	c：技能	d：知識・理解
観点の趣旨	子どもの発達や子育て支援について関心を持ち、実際に子どもと関わろうとする意欲や態度を身に付けている。保育者としてふさわしい考えや行動を身に付けようとしている。	子どもを生み育てることや、家族の役割や地域の子育て支援などについて課題を見いだし、思考を深め、適切に判断し、創意工夫し表現する能力を身に付けている。	子どもと触れ合ったり、子育て支援を行っている人々と交流を図ったりする学習を通して、子どもの発達の特性や発達過程に対応した技術を身に付けている。	子どもの発達の特性や発達過程、保育などに関する知識を身に付けている。 保育者としてふさわしい考えや行動を理解し、身に付けている。
評価方法	取り組み態度 提出物、課題への取り組み状況 実習記録、レポート 自己評価　等	取り組み態度 提出物、課題への取り組み状況 定期考査 自己評価　等	取り組み態度 提出物、課題への取り組み状況 実習記録、レポート 作品製作、実技テスト 自己評価　等	取り組み態度 提出物、課題への取り組み状況 定期考査 自己評価　等

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4．学習の活動

学期	内容	単元（題材）	学習内容	主な評価の観点 a	b	c	d	単元（題材）の評価規準	評価方法
1学期	子どもの発達の特性、発達過程	第1章 子どもの発達の特性 第2章 子どもの発達過程	生涯発達における乳幼児期の重要性	○	○		○	a.子どもの発達の特性、発達過程に関心を持ち、課題に意欲的に取り組もうとしている。 b.「子どもが育つ」ことの重要な点は人間として豊かに育つことにあることを認識している。 c.発達の過程で子どもができるようになることを月齢や年齢に応じて挙げることができる。 d.子どもの成長は身体の発育と心や身体の機能の発達が相互に関連してなされていくことを理解している。	取り組み態度 提出物、課題への取り組み状況 実習記録、レポート、自己評価 作品製作、実技テスト、発表 定期考査
			乳幼児期の発達の特徴、人間関係・運動機能・心の発達	○	○	○	○		
2学期	子どもの生活、保育	第3章 子どもの生活 第4章 子どもの保育	子どもの健康と生活	○			○	a.子どもは保育者の養護なしでは生きて行けないということを理解し、保育者としての責任と自覚を認識する。 b.子どもの成長段階に応じた食事や適切な衣服の選び方を理解する。 c.子どもは自分の体調を正確に伝えることができないため、保育者が日ごろ注意すべき点について理解する。 d.保育の意義目的を理解するだけでなく、実際にどのような育て方があるのかを理解する。	取り組み態度 提出物、課題への取り組み状況 実習記録、レポート、自己評価 作品製作、実技テスト、発表 定期考査
			子どもの食事・衣服・遊びと生活	○		○	○		
			子どもの健康管理	○			○		
			保育の意義・目標	○	○				
			保育の方法・環境	○			○		
3学期	子どもの福祉と子育て支援	第5章 子どもの福祉と子育て支援	子どもの福祉	○	○		○	a.児童福祉の必要性について、具体的な問題を通して考えようとする姿勢がみられる。 b.子どもを保護の対象とするだけでなく、主体的な存在としてとらえることができる。 c.子どもの幸福の実現に必要な児童福祉について、法律や制度の整備面から考察することができる。 d.児童福祉の理念と特徴、実現するための法律や制度について理解している。	取り組み態度 提出物、課題への取り組み状況 実習記録、レポート、自己評価 作品製作、実技テスト、発表 定期考査
			児童福祉の理念	○	○				
			子育て支援				○		
			これからの子どもの福祉		○		○		